賛助会員制度・賛助金制度について

文責：小林知彦

・日本学連幹事会掲示板での議論のまとめ（今幹事会での話題）

賛助会員募集の広報・扱い窓口について

1. 受付を設けるだけでは申し込みはこないので宣伝（募集をしてます的告知をプログラムに載せる等）をする。

参考：京都大学大西さんのコメント（掲示板から抜粋）

賛助会員の申し込みについては、昔から毎年地区代表幹事が仲介役を買って出ていたはずですが、地方の大会で一人で広報しつつ賛助会員を集めてさらにまとめて振り込んだりと一人の負担が大きすぎるためによほどモチベーションなどがある人でない限りしてないと思います。振り込み手数料と郵送費も地区学連持ちだったし…  
負担はなるべく集中しないようにした方がいいと思います。

⇒僕は賛助会員ていうのは賛助したいとおもうOBが自分で振り込むものだと思っていたのですがこの話をきくとけっこう前から学生が代行していたようですね。（関西では）だから事務局で振り込み人と賛助会員申込者の名前が一致しないトラブルが多発していたのでしょう。春インカレ時の幹事会で学生がOB・OGの賛助会員代を出して賛助会員になってもらっているという大学もけっこうあることもわかりましたしOB・OGの意識改革、学生側もOB・OGに賛助会員のお願いをするとかやってく必要があるんでしょうね。

1. 賛助会員の特典の話

・日本学連側で用意できる特典に限りがあるけど日本学連だけで抱え込む必要はないのではないか？

⇒学連後援の大会では賛助会員の受付の設置と賛助会員への特典の付与を規定しているけど最近では形骸化している。これを監督できるようになれば賛助会員への特典は日本学連の財源に関わらず充実させることは可能。充実というよりは規則通りに機能させるだけなんだけど。

⇒たとえば・・・関西学連定例戦のように東海インカレや関東インカレなど学連が主催する大会（運営者は学生OBだけど）の参加費割引を地区レベルで導入するといったこともできる。関西定例戦で賛助会員という名前が要綱に乗ってるのは3年目の僕にはいつも載っているから見慣れてしまったものになっているけど頻繁に出すことで宣伝になると思います。

1. 賛助金の額について

大学大会の後援の話が出てきましたが、その後援させてもらってる大学大会＋インカレ併設大会をメインの窓口にしないか？という話です。具体的には。まず、賛助金の下限を3000円→500円に落とします。  
前に述べたとおり、オフィシャルが賛助会員である義務がなくなった今、賛助金はほとんど「寄付」なので、下限が高止まりしている必要性がありません。で、どのように振り込んでもらうかと言うと、告知文を大会の要項に載せてもらい、賛助金払い込み希望者には、参加費と一緒に大会運営陣に払い込んでもらいます。もちろん、申込書にはその旨記載してもらいます。大会運営陣には、賛助金の払い込み者リストと金額をプログラム上で公表するようにしてもらい、日本学連の方へ、その金額を振り込んでもらいます。  
賛助会員と賛助金のリストはまとめて日本学連のホームページで公表します。  
賛助会員が増えない一番のハードルは「振り込むのが面倒くさい」ということにあると思います。寄付するためにわざわざ郵便局に足を運ぶ人は稀。それならば何かのついでに出来るように仕向けたら？という発想。加えて、広報媒体を「普段良く目にするもの」すなわち、大会の要項にすれば、広報の効率もかなり上がるという算段です。欠点は大会運営側の手間が増えると言うこと。これをしてもらう代わりになんらかのメリットを付与するか、後援させてくださいって、学連側から頭下げるかしないといけないでしょう。（西村）

賛助金が３口からじゃないと申込できないのは、なんか不思議な感じがするけど、５００円まで下げるのは抵抗を感じる。１．賛助会員には何かしらの特典を与えるんだろうけど、それは５００円以内で収まるのか？２．社会人は３０００円が高いから賛助会員にならないのか？ってのが疑問かな。（丸藤）

僕は1000円の方が区切りが良さそうに思います。インカレの地図がもらえるという特典のために入っていた人がけっこういたような気がします。しかもその特典が全ぽ図1枚の時もあれば各コース図と太っ腹なインカレもあったような気がします。最近の地図代の高騰を考えると1000円でも安すぎるくらいかもしれません。（大西）

1. 今回議論した賛助会員システムの試行について

10月に岩手大学、県立大学大会と筑波大学大会（ともに学連後援）があるのでそこで試験的にプログラムでの告知・広報を行う。当日は大会に窓口を設置、賛助会員システムについて説明ができる人をおく（学連幹事がよさそう。いなければ僕がいきます。2週連続はしんどいけど・・）

かりに・・・広報活動が実って用意していた地図の枚数を越えた当日ドタで賛助会員登録する人が現れた場合の対処としてはあらかじめプログラムの広報で用意している枚数に限りがある旨を載せ、なくなってもほしい場合は送料自己負担で後日郵送しますとあらかじめ明記しておくなどトラブル防止の手をあらかじめ打つことは可能。とくに10月におこなわれる2大会の直後にはロングが控えているのでしっかり広報を展開していけばけっこう賛助会員取り込めると思います。